



やなかかのん
谷中翔音さん

●城北小学校 6年

わたしの絵で明るい気持ちに

わたしの将来の夢は、イラストレーターになることです。絵を描くことが何よりも好きで、3歳の頃からいつも絵を描いていたからです。わたしは、落ち込んだり悲しくなったりしたとき、好きなイラストを見ると、とても楽しい気持ちになれます。だから、わたしも、見た人が喜んでくれるような絵を描いて、雑誌や本に載せたいと思います。わたしの描いた絵で、病気やけがで苦しむ人を勇気づけることができたらいいなと思います。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの

メッセージ



新緑があざやかな季節となりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

先月は入学式や入社式、人事異動などがあり、せわしない感じもりましたが、ようやく落ち着いて仕事に取り組めるようになりました。

さて、本市では総合計画によるまちづくりを進めています。毎年市政に関するアンケートを実施し、その結果をまちづくりの参考にしています。この度、平成27年度のアンケート結果がまとまりました。詳細は次ページ以降に掲載してありますが、8割以上の方から「住みやすい」との回答をいただきました。この結果に満足せず気を引き締めて市政運営を進めてまいります。

また、今年度から第2次総合計画の策定に向け、本市の政策について調査審議していただく政策審議委員の募集を行います。今後も市民の皆さんのご意見をお聞きし、市政に反映させてまいります。

市内各所では、スポーツイベントや春祭りなどが行われています。14日から中学硬式野球大会の第3回石井琢朗杯が開催されます。今年も関東・東北から27チームが熱戦を繰り広げます。スポーツ立市を掲げる本市として、今後もこうした大会を開催し、交流人口の増加を図ってまいります。

また、中山間地域の農村レストランなどでは、地域を盛り上げようと春祭りが開催され、地元の皆さんが活躍しています。私も時間の許す限り顔を出し、皆さんのお話を聞きながら、美味しいおそばなどに舌包を打ちたいと思います。

14日には春の花火として人気のある「くずうフェスタ」があくとプラザ周辺で開催されます。外出には絶好の季節です。ぜひ、皆さんも市内各所に足を運んでみてください。

岡部 正英



今回の表紙 「渡良瀬川河川敷の菜の花」(船津川町ほか) 4月9日(土)撮影

市内各所で桜や菜の花が美しく咲いていましたが、渡良瀬川の河川敷では見渡す一面が黄色の花で埋め尽くされていました。

これから新緑の季節。さわやかな季節をお楽しみください。

こ かいなり
五箇 大也さん
(若松町)



キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール
ラーメン店を取り仕切る傍ら、クリケット協会佐野支部副支部長、両毛ムスリムインバウンド推進協議会代表を務める。ハラール食などを通して、佐野市から「世界へ」発信中！

食で世界に佐野を発信！

経済産業省主催で、世界が知らない日本のふるさと自慢を「モノ」「食」「アクティビティ」の3カテゴリーで地域から世界へ発信するWEBサイト「NIPPON QUEST」(ニッポンクエスト)が昨年からはじまりました。

五箇さんは「食」部門に「ハラール餃子」でエントリーし、3月の発表会で、1512品目中、見事に初年度のアワードグランプリを受賞しました。

イスラムでは食べても良いものを「ハラール」と呼びます。佐野のクリケット選手の多くがイスラム教徒で、彼らも食べられるラーメンや餃子を作って欲しいと要望され、五箇さんはハラール食を作り始めました。

ハラールでは素材や調理方法に厳格なルールがあり、豚肉が使用禁止なので、専用に処理された鶏肉を使い、昆布や魚類でスープをとるなど工夫を重ねてきました。「クリケット仲間に教わりながら試行錯誤するうちに、ハラールは決して特別ではなく、食材も身近で手に入り、和食と同じオーガニックな食だと気づきました」と五箇さんは言います。ハラール製品は、安全、清

潔、高品質、高栄養価で、以前から健康意識の高い欧米で好まれ、日本でも注目されてきています。

インバウンド(海外からの訪日客)の獲得が課題とされている今、佐野市も例外ではないかと思えます。

佐野市内には200人くらいのイスラム教徒が居住し、モスク(イスラム教礼拝堂)があります。五箇さんのお店には、インターネットで情報を得たイスラム教徒を中心に、外国人が月100人ほど来店し、その店内は異国の雰囲気ただよいます。国内はもちろん、遠くはマレーシア、インドネシアからも来店する五箇さんの店は、日本での観光旅行コースの一つにもなっているそうです。

「祖父母の代から続く店を自分なりにアレンジしていくことで、世界の人に佐野を知ってもらえて、とてもやりがいを感じています」話す五箇さん。五箇さんの今後の活躍に大いに期待するとともに、来てくれる方々に市内へそのまま回遊していただくコンテンツ・魅力作りが佐野市の課題だと感じます。(市民記者 永倉文子)

佐野弁
ばんざい

のどにまつわる方言
ドックム・ノゼル・ヒツク

のどは食道に通じているし、また呼吸をするときの空気の通路にもなっていて、とても大事な部分です。のどが渴くと思うように声が出なくなったり、物がなめらかにのどを通らなくなってしまうます。のどの動きやその様子を表す方言がありますので、その主なものを挙げてみましょう。

食べ物をぐつと一息に飲みこむことを共通語で丸呑みする、鵜呑みするなどいいいます。肉切れや錠剤のような固形物を、嚙まずに飲み込んでしまうことです。このような動作をドックムといいます。「ドツ」は言葉の意味を強めています。

「あの肉は筋が多くって、しかもカテンデ(堅くって)クツキレネー(かみ切れない)から、ドククンジャツタ」

物が喉につかえて食べられないことがあります。このような状態になることをノゼルまたはノザエルといいます。「のどに障る」が変化したものです。この方言を使う人はほとんど高齢者になってしまいました。

「そんなにセーツテ(急いで)食うと、ノゼルからキー(気を)つけな」

のどが渴いてからからになると、のどがくっつくような感じがします。このような状態になることを、ヒツクといいます。

「目が覚めたらのどがヒツイたんで、水をぐいっとクンノン(飲む)だら、だいぶすつきりしたよ」

(市民記者 森下喜一)

